

公益財団法人高速道路調査会の代表者が評議員を務める REAAA の第 114 回評議員会が開催され、併せて報告された技術委員会、舗装技術小委員会および第 19 回若手技術者会議の活動について出席者から報告する。

## 第 114 回 REAAA 評議員会出席報告

片 山 道 夫\*

### はじめに

アジア・オーストラレイシア道路技術協会 (Road Engineering Association of Asia and Australasia: 以下「REAAA」という) の第 114 回評議員会が 2021 年 3 月 24 日に、REAAA 本部主催の Web 評議員会 (Zoom 会議) として開催された。

Web での評議員会は、第 112 回、113 回に続き今回で 3 回目となり、COVID-19 (新型コロナウイルス) の影響下における REAAA の活動のニューノーマルとして定着してきた感がある。その一方で、今回の評議員会開催時点においては、COVID-19 の影響により今年 9 月へと開催予定が変更されたフィリピンにおける第 16 回 REAAA 総会の開催見込みが明らかになっていなかった。そのため今回の評議員会においては、各種議題の中でも特に第 16 回総会の開催方法について方向性を見出すべく、出席者の間で集中した議論が交わされた。また、評議員会直前の 3 月 22 日には若手専門家 (以下「YP」という) 会議が Web で開催された旨、報告がなされた。この YP 会議には日本の高速道路会社 6 社から新しく 6 人がメンバーとして加わり、議論に参加した。

評議員会には、日本から橋場 REAAA 副会長 (日本

道路協会 代表評議員)、山川推薦評議員、鳥居推薦評議員、黒田 (高速道路調査会 代表評議員)、片山 JEXWAY 社長 (オブザーバー参加)、神谷 舗装技術小委員会委員長、田村 気象変動・レジリエンス・緊急事態管理小委員会委員が出席した。

今回の出席報告では、評議員会の概要について片山が担当し、技術委員会および舗装技術小委員会については鳥居氏、神谷氏が、YP 会議については広地氏 (NEXCO 東日本) が担当する。

### 第 114 回評議員会 (3 月 24 日 10:00 ~ 13:30 日本時間)

#### 1. 会議の開催

(1) Momo REAAA 会長 (フィリピン国会議員 (Lower House)) は冒頭挨拶において、参加者への感謝を述べると共に、COVID-19 の影響下での REAAA メンバー国の活動について、困難に立ち向かう状況が続いているとした上で、私達はこれまでの間にウイルスについて学び、いくつかの新しい取り組みを行っており、今後に向けて更に適応していく必要があるとの認識を示した。そして、活動を持続可能なものとするための戦略を立てていくこと、当面の対応としてワクチンの普及を見極めつつ、9 月の第 16 回 REAAA 総会開催に向けて進むこと、仮に総会の通常開催が困難な場合の対応について考えておくことが必要であると述べた。

\* 日本高速道路インターナショナル(株)社長

(2)今回の第114回評議員会には国別で、オーストラリア、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、タイおよび台湾と、多くの評議員の出席により評議員会は成立した。

## 2. 議事録確認

前回2020年11月27日にWeb開催された第113回評議員会の議事録は、異議なく了承された。

## 3. 財務報告

2020会計年度(1~12月)決算および2021会計年度(2月までの2カ月間)の収支状況について財務長(Ms. Nonon Wardhani インドネシア)から報告された。

2020年度決算においては、総収入は175,972マレーシア・リングギット(以下「RM」と表示、日本円で約460万円)であり、年度当初予算額の約59%であった。収入額が年度当初予算額に届かなかった要因の1つは、会費の未納・入金遅れによるもので、決算時点での会費収入(入会金を含む)はRM109,720(当初予算額:RM217,550)であった。その一方、2019年度以前の未納会費の回収済金額としてRM35,741が別途計上された。未納会費については従前からの懸案であり、回収に向けた取組みが進められてきたが、今回大きく回収が進んだことについて、財務長から各国に対し謝意が示されると共に、2020年度分の会費についても、引き続き回収が進められていることが報告された。収入が当初予算に届かなかったもう1つの要因は広告収入の低迷で、ニュースレターとWebサイトでの広告を合わせた収入はRM4,000(当初予算額:RM44,000)であったことが報告された。

上記の総収入に対し、2020年度決算の総支出はRM222,227(日本円で約580万円)であり、年度当初予算額の約77%であった。特徴的なこととして、評議員会の開催に係る費用がRM929(当初予算額:RM25,000)で済んだことが挙げられ、COVID-19の影響下において、2回の評議員会がWeb開催に変更された結果であることが報告されると共に、Zoom開催に必要なネット環境整備を支援したMs. Qistina Abdullah(マレーシア公共事業省)に対する感謝が述べられた。

以上の結果、税引後の総収支バランスはRM46,524(日本円で約120万円)の支出超過であった。

2021年1~2月までの間における財務状況は、総収

入がRM16,869(当初計画額:RM307,900)に対し、総支出はRM34,463(当初計画額:RM327,228)であり、RM17,594(日本円で約40万円)の支出超過となっていることが報告された

## 4. 事務総長報告 (Mr H.Z.H. Sufian マレーシア)

COVID-19の影響下における活動として始められたWebinarシリーズ(Webでのセミナー)について、2回目となるWebinar2が2021年1月27日に開催されたことが報告された。Webinar2はDr. Dennis Ganendra(マレーシア)をモデレーターとして、Momo REAAA会長、Rooten PIARC会長を含む8人がパネリストとして参加して開催され、COVID-19が各国の道路・運輸セクターに対してどのような影響を与え、各国でどのような対応がとられているのかについて紹介され、意見が交わされた。

Webinar2は日本を含む多くの参加者が視聴し成功裡に終了した。さらにWebinarの第2シリーズの開催を計画していることが紹介された。

続いて、今後の評議員会と関連イベントのスケジュールについて、以下のとおり示された。

2021年4月 REAAA Webinar(第2シリーズ)

2021年9月15~18日(フィリピン マニラ)

①第115回評議員会、②第8回ビジネスフォーラム

③第18回YP会議、④第13回HORA会議

⑤第16回REAAA総会、⑥第116回評議員会

2022年3月(韓国 ソウル) 第117回評議員会、他  
2022年9月(ニュージーランド) 第118回評議員会、他  
最後にマレーシア道路協会(Road Engineering Association of Malaysia:以下「REAM」という)から、COVID-19の影響によって、同協会会員が経済的に厳しい状況におかれているとして、REAAAの会費および入会金の減免についての提案があったことが報告され、評議員会に諮られた。

REAMはREAAAメンバー国の中で最も多くの会員を出す組織であり、COVID-19の影響下において、会員の定着と新規入会を促進することを目的として、REAMから会費等の減免が提案されたことに対しては一定の理解が示される一方、会費等の減免を行った場合にREAAAの財務に対してどのような影響があるかを精査する必要があるとの意見が出された。このような議論を踏まえた上で、提案は3項目

あったが、その内、「2021会計年度内の新規入会者に対して、入会金と同会計年度分の会費を各々50%割引く」とした提案のみを今回の評議員会として了承し、その他の提案については、財務委員会において精査し、改めて評議員会に諮られることとなった。

## 5. 技術委員会報告

技術委員会 (Technical Committee) の進捗について委員長 (Mr. Kieran Sharp オーストラリア) が報告し、続いて3つの技術小委員会 (舗装技術小委員会 (Pavement Technology Committee, PTC)、気象変動・レジリエンス・緊急事態管理小委員会 (Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee, CREM) および道路安全小委員会 (Road Safety Committee, RSC) の活動について各々報告された。技術委員会および舗装技術小委員会の活動については、鳥居氏と神谷氏から別載で報告する。

## 6. 会員促進委員会報告

2020年11月1日から2021年2月26日までの4カ月間の会員数の増減について、委員長 (Mr. Sugiyartanto インドネシア) から報告された。この間会員総数は1,267から1,253へと14減少し、その内訳は退会による減が26で、新規入会が12であった。

## 7. 広告委員会報告

REAAAの貴重な収入源として期待されている、Webサイトとニュースレターへの各国からの広告掲載の状況について、Dr. Ganendra から報告された。広告募集については、Webサイトとニュースレターに対して、最低1件の出稿が第110回評議員会で決まっているが、2021会計年度に入ってからからの広告掲載は、マレーシアによるWebサイトへの掲載1件のみだった。なお日本からは現在、Webサイトに対してJEXWAY (Japan Expressway International) から1件広告を出すべく準備を進めている。

## 8. ビジネスフォーラム

REAAAメンバー国のB to Bの協働促進を目的として、2014年以降開催されているビジネスフォーラムについて、第8回フォーラムが9月の第16回REAAA総会に合わせて開催する計画であることと、今回はそ

の進捗について特段の報告事項はないことが、Ms. Wardhani から説明された。

## 9. フェローシップ・プログラム

REAAAメンバー国の中でも発展途上にあるいくつかの国の会員に対して、資金的に支援してREAAAのイベントに登壇者として参加してもらうことを目的として、2016年に開始されたフェローシップ・プログラムについて、9月の第16回REAAA総会と第8回ビジネスフォーラムとへの招聘に向けて、候補者を選ぶ必要があることが、Dr. Ganendra から説明された。

## 10. Webサイト

現在、REAAAの公式Webサイトとして、REAAA.NETとREAAA.ORGの2つが存在していることについて事務局から説明があった。REAAA.NETは従来からあるサイトで、一方REAAA.ORGはMomo REAAA会長主導の下でフィリピン支部の負担によって新しく開設されたサイトであり、内容の一部に違いがあるものの基本的に機能は同じで、双方ともに事務局によって更新されている。将来的には従来からのサイトに一本化される見込みとのことであった。

## 11. ニュースレター

韓国が担当して作成が進められているニュースレター (2021-1号) の概要とその進捗について、Ms. IO Song (韓国道路協会) から報告された。この号では、9月の第16回REAAA総会の開催を紹介すると共に、アジア・オーストラレイシア地域において最大級となるインドネシアの首都移転プロジェクトについて、“Road to New City ; How Road Networks drive Urban Development” と題した特集記事を組むことになっている。

## 12. YP会議

REAAAの若手専門家の交流促進を目的とするYP会議が2021年3月22日にWeb開催され、その内容について、Mr. Hamzah Hashim から報告がされた。今回のYP会議には、日本の高速道路会社6社から各々1人ずつ新しくメンバーとして登録され出席した。YP会議の活動報告については、出席した6人を代表して広地氏から別載で報告する。



### 13. 片平・三野基金

両基金の状況について黒田氏から報告された。両基金は、Standard Chartered Bank Singapore の定期預金としており、2021年1月末時点の片平基金の残額はGBP36,935.25（日本円で約560万円）、三野基金はUSD35,057.74（日本円で約380万円）と、それぞれ英国ポンドと米ドルの基金となっている。両基金共に預け入れ金利は0.1%以下となっており、金利収入が少ない状況が続いているが、これまでの片平賞と三野ベストプロジェクト賞の賞品、賞金については、その必要額の全てを日本企業から寄付をいただくことにより、両基金には手を付けずに済んでいる。9月の第16回 REAAA 総会で表彰される予定の片平技術論文賞の賞金総額 USD 3,000 については、既に片平グループから寄付金の入金完了していること、三野ベストプロジェクト賞の賞金総額 USD 3,000 については三井住友建設(株)から寄付の申し出を受け、入金に向けた手続きが進められていることが報告された。

### 14. 三野ベストプロジェクト賞

三野ベストプロジェクト賞の選定について、橋場氏から報告された。同賞はアジア・オーストラレシア地域において近年実施された、道路または橋梁で傑出したものと認められたプロジェクトに対して与えられるもので、三野 定 REAAA 第10代会長の譲金を基に2016年に創設され、今回はその第2回となる。

同賞には2つのカテゴリー（カテゴリーⅠ：High Volume Road, カテゴリーⅡ：Community Road）があり、今回はカテゴリーⅠに6件、カテゴリーⅡに5件の有効と認められる推薦があった。推薦のあったプロジェクトに対して、2021年3月24日に三野ベストプロジェクト賞の評価委員会が所定の基準に基づき評価を行い、各カテゴリーについて2件ずつ、下記に示す4件を受賞プロジェクトとして選定した。

#### カテゴリーⅠ：High Volume Road

① Provincial Highway No.9 Improvement Project・・・Anshuo to Caopu Section, Taiwan

② AP.Pettarani Elevated Toll Road Project Makassar, Indonesia

#### カテゴリーⅡ：Community Road

① Construction of Submersible Bridges in Rural Areas

in Myanmar, Japan/Myanmar

② A National Highway No.2275: Huay Rai-Ban Klang Rehabilitation Project for Green and Sustainable Development of Thailand Rural Highway Network, Thailand

評価委員会が選定した上記4件のプロジェクトについて、第2回三野ベストプロジェクト賞を付与することを第114回評議員会として了承し、9月の第16回 REAAA 総会において表彰することが確認された。なお評価委員会の構成は、橋場 REAAA 副会長が委員長、REAAA の各支部から5人と台湾から1人の合計7人の委員からなっている。

### 15. Hwang 基金

韓国の Mr. Kwang-Ung Hwang (REAAA 名誉会員) からの譲金を基に2017年に創設された Hwang 基金の状況について、Dr. Sung-Hwan Kim から報告された。同基金は韓国の銀行口座に預金しており、2021年1月末時点の残額は KRW 111,420,059（日本円で約1,110万円）となっている。なお、2018年1月から現在までの3年間の金利収入は KRW 6,000,059（日本円で約60万円）となっている。

### 16. 第16回 REAAA 総会開催予定

2021年9月15～18日までの3日間、フィリピンのマニラで開催予定の第16回 REAAA 総会について、COVID-19の影響を踏まえ、どのような形で開催するかについて集中した議論が交された。開催地となるフィリピンの現在の感染状況と対応状況、REAAA メンバー各国におけるワクチン接種見込み等を総合的に勘案した場合、従来のような現地でのリアルな会議を開催することはリスクが大きいという点で認識が一致した。一方、さらなる開催延期も難しいという判断から、Web会議として開催する案と、リアルな会議とWeb会議の双方の利点を生かしたハイブリッド開催とする案との2案が議論された。その結果、どちらの方法で開催するかを、開催国であるフィリピンが急ぎ検討の上判断し、各評議員に通知することになった。（今回の評議員会終了後、フィリピン道路技術者協会（以下「REAP」という）において9月の第16回 REAAA の開催方法について検討され、ハイブリッドではなく Web 開催を推奨することに決まり、その旨の通知が、REAP

のCabral 会長名で各評議員に対して4月6日になされた。これを受け、今後は、Web開催とすることで調整が進められ、6月を目途に別途機会を設け、会議の詳細について評議員に示されることになった。

## 17. 指名委員会

次期(第17期)評議員の候補者について、委員長のDr. J.A. Karim(マレーシア)から報告された。REAAA Officeの評議員のポストについては、前回評議員会において唯一の会長候補者として決定した韓国のDr. Sung-Hwan Kim氏の他にフィリピン、インドネシア、マレーシアの3カ国からの4人が、引退する評議員からの推薦を受けて候補者となった。残る各国からの評議員のポストについては、オーストラリア、ブルネイ、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、台湾およびタイの11カ国に21のポストが割り当てられ、日本からは日本道路協会と高速道路調査会の2つに割り当てられた。この21のポストの内、ブルネイの2つを除く19のポストに対して各国から候補者の推薦があった。次期評議員については9月の第16回REAAA総会時に開催される第115回評議員会に諮られた上で決定される。なお、日本からは日本道路協会代表評議員として橋場氏(現REAAA副会長、現評議員)が、高速道路調査会代表評議員として片山が各々候補者として示された。また、評議員の任期は4年間となる。

## 18. 名誉会員

名誉会員選定状況について、名誉会員審査委員長のDr. Hermanto Dardak(直前会長)から報告された。日本から推薦された現推薦評議員である山川氏、鳥居氏を含む12人が候補者として選定され、会員投票に付され、現在集計作業が進められている。この名誉会員は、9月の第16回REAAA総会において公表される。なお、審査委員会の構成は、Dardak委員長(インドネシア)を含むREAAA各支部からの5人に、日本の黒田氏を加えた合計6人の委員からなっている。

### さいごに

COVID-19禍が続く中、今回の第114回評議員会では、9月の第16回REAAA総会の開催方法について議論され、評議員会終了後のREAPの判断も踏まえた上で、Web開催とすることで今後調整が進められることになった。総会開催に向けては、片平技術論文賞、三野ベストプロジェクト賞、Hwang賞の各賞の表彰対象が出そろうとともに、次期評議員と名誉会員の候補者もほぼ出そろった。Web開催の詳細については、決まり次第順次REAAAのWebサイト(REAAA.NETまたはREAAA.ORG)で紹介される予定のため参照願いたい。今後は、1日も早くCOVID-19禍が終息することを願う一方、現状に対応した新しい形での活動を進め、REAAAの活動が発展していくことを期待したい。

# REAAA 技術委員会・舗装技術小委員会報告

神 谷 恵 三\* 鳥 居 康 政\*\*

本稿では、技術委員会全般と舗装技術委員会の活動についてそれぞれ鳥居と神谷が報告する。

## 1. 技術委員会

まず技術関連刊行物について、“Journal”の発刊は

前回報告(本誌2021年2月号)のとおりSharp TC委員長発意の「オーストラリア(舗装)特集」号が計画されている。執筆に関心を示す者が出てきてはいるものの未だ原稿の収集まで至っていないとのことであった。

“Technical Reports/Compendia”としてまとめる予定の刊行物も前回からの持ち越し2件であった。1つはミャンマーの舗装マニュアルに関するものであり、残る1件はCOVID-19がもたらした道路交通インフ

\* REAAA 舗装技術小委員会(PTC)委員長、中日本高速道路㈱技術支援部専門主幹

\*\* REAAA 技術委員会委員、PTCアドバイザー、世紀東急工業㈱常任顧問

ラストラクチュアへの影響に関する Webinar 2 回分の発表事例集のとりまとめであった。前者については平川 PTC 委員からマニュアル本体のサマリーを主体とした原稿が本年 3 月に PTC 委員長宛てに提出されている。ただし、REAAA の Technical Report としての体裁を整えるには修正・加筆が必要と思われる、編集を検討中である。後者については Webinar の運営者および事務局にも協力が呼びかけられ、発表者の原稿・資料を収集することになった。

なお、評議員会報告では触れられなかったが、本報告者 2 名の間で PTC が現在作業中の「舗装構造・設計」に関する調査研究も“Technical Reports/Compendia”としてまとめることを協議中である。

## 2. 技術小委員会

最初に 3 つの技術小委員会（舗装委員会 (PTC)、気象変動・レジリエンス・緊急事態管理委員会 (CCREMC)、道路交通安全委員会 (RSC)）の最新名簿の報告があった。更新内容は韓国から PTC への委員追加と前回まで空白であった CCREMC と RSC への新規委員登録（それぞれ複数）のみであり、他に前回呼びかけられた「空白」会員国からの新規登録はなかった。

CCREMC 活動報告では TC 委員長でもある Sharp 委員長から PIARC の関連 TC との協議途上にあるという TOR が示された。現時点では本地域の事例集取りまとめを 2024 年末としている。なお本委員会には、わが国から PIARC TC (Disaster Management) の新旧委員長が参加されている。そのうちの田村委員は Sharp 委員長と密接な連絡をされており、今回の評議員会にも出席、発言をされている。

マレーシア道路交通安全研究所 (Malaysian Institute

of Road Safety Research, MIROS) が主体となって活動している RSC は前回より進展した報告があった。本評議員会開催前に RSC 内でクエショネア調査を行い、差し当たって歩行者、自転車・オートバイ利用者、高齢者などの“Vulnerable Road Users”をテーマとし、事例・課題をまとめて Technical Report とする予定とのことである。続けて“Road Safety Audit Manual”の作成に着手するとの報告もあった。

技術委員長報告には他に、会員各国の「道路交通統計」の更新と「PIARC との連携」があった。前者は 2021 年 3 月時点で事務局がまとめた資料が示されたが、後者について技術小委員会で触れられた事項以外に報告はなかった。

## 3. 舗装技術小委員会

前回の評議員会以降、活動報告に値する進展はなかったものの、アジア諸国の舗装構成と設計因子に関するアンケート調査に協力をいただいた関係諸氏へ感謝を申し上げた。併せて追加質問への返信をしていただくようお願いをした。サマリーレポートはほぼ完成しているため、9 月のマニラ会議で配布できる予定である。

今期 PIARC TC 4.1 舗装委員会とのコラボレーションについては、引き続き TC 4.1 の活動計画に準じる予定である。活動計画書 (TOR) の具体案は、マニラ会議の場で提案するが、現在のアンケート調査からアレンジする予定である。

以上のように会議では述べたが、会議の最後に意見交換のあったマニラ会議の開催方法が流動的 (In-person, Online or Hybrid) であることが示された。これを受けて、PTC 委員会の開催方法も再考する所存である。

# REAAA 第 19 回若手技術者会議出席報告

広 地 豪\*

## はじめに

REAAA 第 114 回評議員会の開催に先立ち、第 19 回若手専門家 (Young Professionals: 以下「YP」と

\* 東日本高速道路(株)技術本部海外事業部海外事業課



いう)会議が、マレーシアの YP を幹事として 2021 年 3 月 22 日に開催された。YP 会議は各国の若手の道路専門家の交流を目的として開催され、2012 年 4 月の第 1 回会議以降、評議員会と合わせて年 2 回程度開催されている。今回は、COVID-19 感染拡大防止のため、集合会議ではなく、評議員会同様 WEB 会議形式で実施された。

### 第 19 回若手専門家 (YP) 会議の概要

本会議には、インドネシア、フィリピン、マレーシア、台湾、日本、韓国、オーストラリアから合計 24 名の会議参加があり、日本からは、各高速道路会社において新たに選出された 6 名の YP が参加した (表-1)。

表-1 各社の Young Professionals (YP)

所 属	氏 名
東日本高速道路(株)	広地 豪
中日本高速道路(株)	榊原 稔基
西日本高速道路(株)	鶴川 慶次郎
首都高速道路(株)	近藤 竜平
阪神高速道路(株)	諏訪 雄一
本州四国連絡高速道路(株)	小林 弘昌

YP 会議は、各国の YP の自己紹介、前回からの活動報告 (アップデート)、テクニカルプレゼンテーション (インドネシア)、次回 REAAA 会議についての情報提供により構成されており、約 2 時間の会議であった。

自己紹介の後、各国内での YP 活動に関する活動や COVID-19 対策等に関して発表を受けた。日本からは COVID-19 感染者数の状況、およびそれに伴う高速道路の交通量状況について説明を行った。

テクニカルプレゼンテーションは、インドネシアジャワ島における、海上での高盛土による有料道路建設に関する紹介があった。インドネシアでは、地下水くみ上げ等による地盤沈下が深刻であり、例えばジャカルタ北部では 2000 年以降最大 2 m 以上の地盤沈下が発生している。そのため、沿岸部では土地の沈下とともに、高潮による洪水被害が頻発しているとのことであった。本紹介プロジェクトは、軟弱地盤対策として PVDs (Prefabricated Vertical Drains) 工法および排水マットとして竹を 19 層に組み利用し、水面下へ沈んだ海岸線沿いに約 17 m の高盛土により有料道路を建設するものであった。



写真 YP 会議の様子

最後には、9 月 16 ~ 18 日にマニラで開催予定の第 16 回 REAAA 会議の案内があり、9 月 15 日には YP セッションがある旨紹介され、記念撮影をして終了した。

### 参加所感

初めての YP 会議へ出席であったが、開始前から雑談も多く、話しやすい雰囲気であったことから、本会議を通じ各国の状況を垣間見ることができ、各国の若手専門家と知り合える非常に良い機会であった。

テクニカルプレゼンテーションでは、質問する機会をいただき、なぜ海上の軟弱地盤上という悪条件の中、盛土を採用したのかとの問いに対し、高潮による洪水を防ぐ堤防の役割を担う必要があるためだと回答をもらった。背景にある課題が、設計条件に与える影響が非常に大きいことを改めて実感するとともに、道路分野で完結せず、港湾や水文等の各分野とも連携が必要であることを知り、日本との状況の違いを知ることができたことは大きな発見であり、視野を広げるのに役立つと実感した。9 月のマニラ大会についても Web 会議形式であるものの、YP 間交流をさらに深めるものとしたと考えている。